

健康志向、宿泊して観光めぐりも

生きがい対策や交流人口の増加

犬山市の農地は、市全域の20%弱を占めています。ところが農家の減少や後継者不足から荒れ放題となっている耕作放棄地は平成22年度65・3%あり、これはナゴヤドームの約50倍にもなります。この耕作放棄地の増加が、全国どこの自治体でも大きな悩みとなっています。

犬山市でも、経営困難な零細農家に肩代わりして大規模農家が耕作したり、農業実践講座や市民農園の開催をすすめてきましたが、さらに目を付けたのが、宿泊滞在型農業体験施設の研究。

ドイツが発祥の地と言われ、200年の歴史を持つ農地の賃借制度。滞在型市民農園ともいわれ、一区画の農地内には、休憩もできる家屋があり、家庭菜園はもちろんガーデニングも行えるなど、これまでの一坪農園や市民農園などと違っています。

70万円程度。1か月に5回程度は滞在しなければならず、ここでは食の安全や環境に配慮した有機栽培か減農薬栽培が求められます。また住民票を移し永住することは認められず、別荘やセカンドハウスの感覚で借りる人やグループで借りる場合もあり、プチ田舎暮らしやスローライフを楽しまたい人に最適です。

現在、日本では約60か所の宿泊滞在型農業施設があり、岐阜県では岩村（恵那市）などがありますが、愛知県にはまだなく、三河湾に浮かぶ佐久島（西尾市）に来春オープンすることになっています。

農業体験農園とは、一般の市民農園のように区画を割って貸し出すものではなく、ありません。耕作の主体は農園主が行い農園主は農具や肥料等を準備し、会員に農作業の指導を行います。

会員は会費を払い、定められた区画の作業を行い、収穫物は会員が買い取るという制

度です。農園ごとに講習会や収穫祭などのイベントが開かれます。都市住民に身近な農業体験の場を提供するビジネスモデルとして注目されています。

犬山市でも耕作放棄地を利用した新しい農業形態を研究し、順次候補地選びや土地の所有者と協議など実現に向けて進めていく計画です。

このことは、耕作放棄地の解消だけでなく、次のような利点があります。

①健康市民の増加

現在、市の重要施策にもなっており、農作業をしながら健康推進にも役立ちます。

②高齢者の生きがい対策

定年後に自宅で暇を持て余している団塊世代の高齢者に、働く喜びを感じてもらおう。

③交流人口を増やす

観光犬山の知名度を活かし、犬山で農作業をしたい人やその家族に、週末に宿泊兼農作業を行い、その合間に観光地巡りを楽しんでもらえばまさに一石二鳥の楽しみとなります。

犬山は名古屋や岐阜など都会から城下町を訪れる観光客が多く、今都会の人にとってあこがれの地。さらに健康志向も手伝って、担当課は「犬山らしい農業を



ホウレンソウを栽培する倉橋さん

目指す。農業を通して犬山に住みたい、と思えるようにしたい」と張り切っています。

機能性野菜に注目 すでに試験栽培も

野菜は健康の源と言われますが、最近、これまでの野菜より栄養価の高い機能性野菜が注目を集めています。

県農業総合試験場（長久手町）でも、機能性野菜やその栄養価について研究、これまでに大根、キャベツ、白菜、ニンジン、赤カブなどを開発、共通して言えることは従来の野菜よりコンパクトであり、それだけ栄養分が凝縮され、栄養価が高いといわれています。

市でも機能性野菜に注目、「犬山ブランド」として売り出せないか注目しています。市内では橋爪万願寺、倉橋守さん（78歳）が栗栖の農地で昨年試験栽培しています。1畝の農地に、ホウレンソウ、大根、かぶらを堆肥をいっぱい入れて育て、もちろん無農薬栽培です。

現在、ホウレンソウの手入れの最中ですが、倉橋さんは「御覧のようにホウレンソウは従来のものより色が濃く、

耕作放棄地マップ

名経大生ら情報提供

市では平成22年12月から農地を貸したい人と借りたい人をあつせんする「犬山農地バンク」制度が始まっています。一方、耕作放棄地のデジタルマップを作り、美しい農地に戻すため活用してもらおう。楽田にある名古屋経済大学の学生グループ8人（代表・金井創研究生）は、4月から現状調査を始めています。金井君らは「これ以上、耕

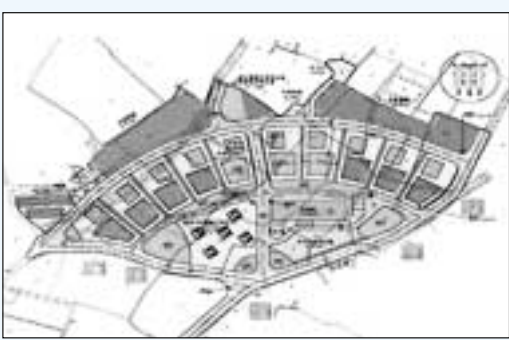
作放棄地が増えれば、美しい犬山の自然が失われてしまう。我々にもそれを防ぐため何かできないか」と、デジタル防災マップを研究していたシステムを応用して耕作放棄地のデータマップ作りを思いつきました。

通学途中や休日を利用して、車や徒歩で市内を巡回、62件の放棄地を調査。草が生い茂ったミカン畑や排水路との区

別がつかない農地など、荒れ放題の農地が大半です。これらの土地を1件1件にわたり、住所、地目、面積、隣接の道路の有無、排水の便、日射条件などを詳しく調べ、一覧表にまとめています。

さらに調査区域を羽黒、城東と全市に広げ、JA犬山支店や市農業委員会とも連携、情報の相互利用をすることで、農業を志す人たちに情報を提供できればと言います。

将来的には、調査を市外へ広げ、放棄地の持ち主と利用したい人たちの橋渡しをするような事業を計画中です。



佐久島の施設の鳥かん図

栄養価は高いと思います。1月から収穫し、学校給食用に出荷しようと思えます」と張り切っています。

ブランド化や地元産の増産

5次総

今年度から12年間、犬山市政の指針となる「第5次犬山市総合計画（5次総）が始まります。前ページと重複しない範囲で、農業部分を簡単に紹介します。

食の安全意識が高まり、農業の重要性が再認識されてい

る一方、農業従事者の不足や高齢化が問題となっており、一層、農業生産が健全に行われることが期待されています。

①用排水路やため池などの整備実施率

地元から要望のあった実施率で、現状値（平成21年度）は55・4%ですが、目標は60%まで引き上げ。

②農産物のブランド対象種類



学校給食



市朝

ブランド化できそうな農産物の種類を、現在（桃、じねんじょ）から倍増の4種類に。

③農業の担い手育成

農家の後継者の確保・育成や新規就業者の養成に努め、野菜農家育成に向けたより実践的な農業講座を開催するなど、農業の担い手を育成します。

④学校給食の地元農産物の増加

朝市出店農家が生産・納品した地元農産物を毎年1%ずつ増やす。

⑤地元農産物の消費促進

直売所の設置を検討し、生産者の販売場所の確保や朝市の活性化を支援します。